

藤井伊賀藤原定清

藤井政藏定温家

附  
藤井庄(後)藤原定昌

藤井庄(後)足共家

藤井平藏藤原定重

系嗣不詳

干城録卷第二十六

紅房

助之清源職之重之清職勝之子なり

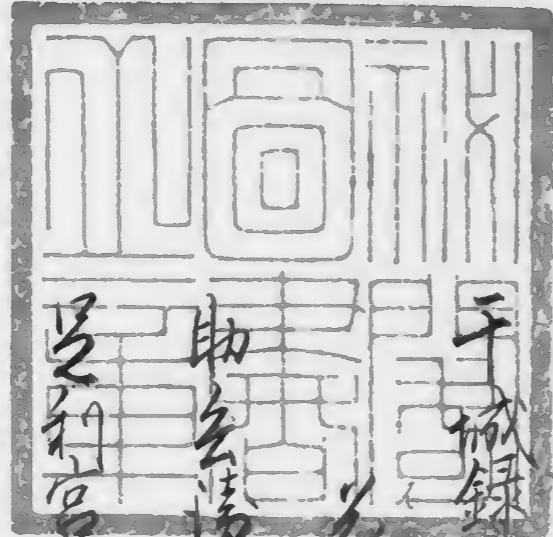
足利宮内大輔春氏之後裔にして五郎

職通る時常陸國花房小住なるより

遂小家號とせり大札正和れはるなり

家職之美化小住なる  
浦上平喜多両家  
記備前軍記  
くしめ

浮田自家小住へ七千石と知行し



按るる小公程因暇難書小職之くくめ  
小早川隆景に於て記せしは深うう

足輕大將と云

つまむ使番の役とし勤し

浦上守喜  
兩家記

永祿

八年美作國院元神後合戦の時敵と組  
て首級と得たり同九年鷹巣落城に  
時小川城主江美次郎と討する備中國日  
幡川城主日幡八郎に討つ毛利氏小とむ  
こころまへ毛利大軍と出でて大和と攻  
圍む城將防るるやあひひらんやう

直家小後とすつにといふ直家家  
人としてたまはる後詰と命する此  
合戦城方たる危く見えらまは辭退  
て應るるありし時小職之あしむ  
んたんとすいひらまは直家よりこ  
大和とありはるまはより職之日幡と籠  
つと遂小敵の圍と解て日幡の急とを故  
らる寛永  
譜直家其いことい感稱

て備前國由利山の登波利等此地とあり

たふ寛永藩家譜同十年伯耆國南谷合戦

小加茂陣心と遣とありを備中國撫川の

城攻小も先どかきり高名は同十二年

職之武畧とあり備前國伊部城主日笠

源太と討捕ぬ同十年備中國戈田合戦

毛利は玄徳井田共四郎と一番に遣と合

とくかゝる軍功数なるあり

元年美作國ハ諸軍の頭小命せられ

荒神山ハ城と築こてナクに後つと任同

二年同國篠山の城小肥田ハ馬助高橋

四郎ハ去傍ら籠るるに職之うちいして

攻落ハかの西人と討取ぬ翌年小早川

隆景同國佐賀山の城と守るるといふを

向く攻落ハあまこけ敵とうちとり

りり天正元年同國早川氏ハ不領硫黄

山并形年々二城と攻落して家人に  
命じ城守せし世同三年同國久田西屋  
城と攻落して城守と置同五年直家  
播磨國竜野小出張の時赤松の玄清尉  
陣と鷲山にたる職之十と討て敵の  
まこと討とうとく赤松の玄清とく  
く敗走ひかく戦ふ毎く其降人と味方  
く属し國中と平けぬ寛永同六年三月

尾子白旗尉勝久播磨國上月城小指  
籠るとは直家の陣代とく職之及  
ひ長船又右邊等出陣しての城とせめか  
らみぬ同七年二月さきに天神山落城は  
後浦と宗景く属して直家の降  
さるものと攻うこんと職之延原弾正  
と美作國周遊り城と攻とく四月  
倉敷村の南なる倉拂山小陣取て三月

城とせめ圍じしこの城は宗景の老臣後  
藤左衛門勝元籠りて居りて遂に  
城落し勝元自害しかして職之荒神山  
小とゆりて楯毛利の城名等と夜々  
のせり合ひつ祝山の城將瀧屋佐分と討  
落し其首ととる備前軍記同八年の春直家  
卒しはまは嫡男八郎秀家遺跡とつ  
たしとて職之中に秀家と属人同

十年輝元大軍と卒して沖構の城  
小楯籠りて職之加勢と秀家についで  
まゝ大軍ととて攻落しついで下り  
先職之附城小籠りて敵夜中に籠り  
ひ来りてとて職之を難波又  
市郎夜討の先か市興津三郎と討捕  
る也敵利と失ひて引退く秀家又市  
郎若年小して敵將討取事

其切少るるを以て感状とあはす寛永一備

同十八年小田原陣の時豊后家へ謀して

秀家の方より城中和平の使節を送

らして職之出に美麗な小姓と撰ひ

出して大將に使してさゆりし小遂に其

幸とてのひかり東武 實談大將の事小や

豊后家野外小陣場といふるまかれなる

らありしを懐樂なるかきと催する諸

軍其門と過るもの馬より下たちて

通りける小波邊半藏守綱と馬より

下冒とぬき慎みと過るるは豊后

家見たまのひと浅くは感くるるふ

はと職之ハ馬より下冒はかう通るん

とひ番の人をこまに見ると無禮なり

と制する小職之ハ之をかくる時

懐樂するに大將をえたりし馬を



武林隱  
見録

文祿元年朝鮮征伐の時、秀家に

従ひし之地、渡海し漢南人数多と討

取らり、帰朝の後、豊后家其軍功と感

し、秀家に命じて家老とせしむる

國政と司とせしむる、印書とあはさ

寛永  
一百五十九年先岡山政務、戸川平

右衛門秀安つらとせしむる、後岡平内某これ

に替つて司りし、平内朝鮮にて死

らる、後の長船紀伊守某の子と出らるる

此人邪智多し、萬の位置公より

よか、中村次郎玄清、浮田右衛門

よか、ぬんて用ひし、札家中、まじり、若

し、あ、れ、う、し、し、の、ま、り、り、り、職、之

た、れ、以、歎、よ、志、り、秀、家、に、諫、と、い、ま、し、紀

伊、守、と、退、け、ん、と、或、苛、政、以、讎、謗、を

し、幸、遂、し、秀、家、に、再、に、入、り、怒、り



やうく岡山下町の邸に職之と関指せ

先備前軍記自害させしやうかのひらるる

職之ハ朝鮮とといふ軍功とあり

豊后家よりあるはるはる

右のいふかひの石田三成より

大ましく罪と言ふはる豊后家聞

召はれし職之と伏見しる寛永譜備前軍記

され職之父子三人岡山と發し伏見

に著し備前軍記時小

東照宮もかれとありはる

考さうにどうり終ひはる遂小死

罪とぬぬりたる公程岡  
暇雜書同二年常陸

國にわもじう先佐竹右京大夫義宣

方より預ける寛永譜備前軍記○按とるは職之

つとて年月たうらうら浮田考家記しるは長船長門國政

としり私多きといふ職之戸川備前浮田右京左房志保と

ともしく岡山とさる東照宮ハ伏見の法印と録し身は

進退とまうせ奉りし考家ハ使とまひて職之等以り

くためりくくわく言ふなり 東照宮の事一たまひ  
考家力るく大谷名継くくわく名継まじく神原康政く法合  
して再い 東照宮く言ふひ然るく許容るく  
康政清氣と云ふく其事くひかくて職之ハ義宣  
に由緒ありくくわくめくくくくくくく 東照宮内  
後い遂不圖東にりるより一記さく慶長見聞書黒田本園原  
記等大抵くまじくかろくくまじく寛永神原譜ハ職之ニ男五  
五郎慶長元年拜福くくく時ハ職之常陸小千代に  
くハ文禄年中ある事 明らりく云くくく川北浪浮因江京  
之房志摩等因山と云くハ慶長四年ハ事らりさくハ職之  
ハ同時くありくく事知へく一既ハ備前軍記ありくも職之  
戸川等々因山と云くハ年時相違ハ事 明らりくわく今備前  
軍記くより寛永譜と  
折中くくくく 此時

東照宮職之る業く功あり事と聞

召男子一人召仕りまんとひそくに拘  
命ありくハ武藏國と過るくハ池

山本門寺の住僧小 按くくく公程内假雜書  
く小石川の寺と云るより

九歳ハ二男五郎職直と云く頃

置らる 勇士一言集 ○ 按くくく山本門寺ハ住僧ハ職之る縁  
あるより云るくよりわくたのハ置らるより一浮田

秀家記く載く又寛永譜ハ文禄三年職之ハと過るく  
こ 東照宮其軍功いらるるこハのらるとくハいハ  
名家ハ恩免ありありく一聞く召男子とくめく召仕り  
んと命せられより一云るハこまじく文禄三年二月  
東照宮ハハ發駕伏見くのありせく其同四年五月清涼殿  
ありくハハと過るくこかく命せられより一ハ

徳るるへ云程閑暇難書く 東照宮よりうり信と  
りて罪まぬらむと云はれ伏見あり清英約あり  
つゝるるへ云々直く職直と召出さるるへ其時  
勢と憚り終ひて事るるへ云々されは本文は云々  
其後

東照宮清遊揃ひに池とに渡せざる  
神原康政扈從一奉まじりやうと本  
門寺へ入清一信ひに任僧庄五郎職  
直く命じて茶と肉とせし時  
莊房職之う子此邊へは云々云々知

つゝんと宣ふ任僧云々今茶儀獻  
つゝるるへ云々云々言と云々  
直く召出されまへ康政と云々汝  
家號とあり云々命せらるる云々  
て神原庄五郎と改め遂に清家人と列  
にす 浮田秀  
家記 云々云々に伏見あり密  
に清英約の首尾と合せられと我

聞え  
勇士一言集 〇按るる云々職直と召出され  
幸寛永譜云々慶長元年とありまへ浮田

秀家記より天下統一統の後駿府より江戸清遊極時とい  
ハ慶長十二年より後之事やして職直の年齢にかゝる人  
より慶長五年職之召出さるゝぬまの家號と改めらるゝは  
とて不謂るや、とて國原亂より前之事なること、然るに  
東照宮文祿四年五月江戸清歸府同年七月十五日江戸清發  
駕慶長五年六月景勝征伐より伏見より江戸より、とて此  
此清遊極ハ文祿四年五月より七月まで、とて、  
いふことより、とて、時日ふかひさきハ年代とあることハ

慶長五年より景勝征伐より

六月

東照宮大坂と清發駕七月江戸小着せ  
らまじやうに江戸と清之ありて下野

國小山よりせらる

清年譜(櫻) 慶長見聞書此清出陣伝

奉内より花房助玄揚清後番より、供奉とあること、  
誤らうたのころハ常陸に在る、は、ま、い、と、せ、ら、う、ら、う

時より石田三成叛送より、日進あり日記

加其頃景勝ハ義宣より使節と送りこと

ひれ謀叛より與りたまふこと、ひれ、ひ、り

義宣より敷返言せし職之ハ、と、と

伏見に在る密に

東照宮に清くもあがりあり、と、と

常陸と去る小山と来つて住んだるま

つゝとやと言ふ公程閑暇雜書つゝとや言ふ

奉つ寛永つゝとや言ふ

謝し奉る浮田家記つゝとや言ふ

つゝとや言ふ此法使と勤めつゝとや言ふ

東照宮法前召れつゝとや言ふ

つゝとや言ふ職之つゝとや言ふ

義宣景勝與せつゝとや言ふ

つゝとや言ふ義宣つゝとや言ふ

つゝとや言ふ景勝つゝとや言ふ

つゝとや言ふ律義つゝとや言ふ

つゝとや言ふ景勝つゝとや言ふ

つゝとや言ふ律義つゝとや言ふ

つゝとや言ふ景勝つゝとや言ふ

つゝとや言ふ律義つゝとや言ふ

つゝとや言ふ景勝つゝとや言ふ

こころをいよら引こまき清敵の事おめい

とよひとて言ふ人 公程周暇雜書公前物語

東照宮まこと仰とゆとてさうりてか

めい取ふに誓詞と書とせ宣ひたる

職之慎て人心に及西復に父子の情も討つ

うとて誓詞の事いふゆとてかうや

んと辞したるゆとて清氣色損

て座とたせ給ふ 常山紀談 按てて公前物語  
くせ給うて後 東照宮仰り

職之に武切の者し内と聞及ひてさかめい...  
武功のさかめい...  
らとて次業とて遠く...  
時武道不業内...  
清方と與して相違る...  
清方はいさ...  
さ...  
たりとて秀家...  
かくて三成とて

せ給りんとて清と落とてり職之に清

先もよと加りりてと方とて發向 寛永  
譜

関原の一戦といふ戸川肥後守達安とてかれ

くく軍切あり 浦上守喜  
多両家記 此戦ひ清勝利

とちり三成は殊と伏し秀家より方  
定らるるころより三成は岡山城に警固し  
して戸川達安浮田に京亮成正親房志  
摩守正成と職之備前國におとし心さ  
城代浮田官を務めしころ今秀家より所  
在たらしるころひさしくいたる為し此城  
と守りしころとて去りと述るる  
にのり岡山に玄士等力あり妻子徒類

と相具して皆らつていそごころり  
らるかくて職之等城下と放火し浮田成正  
親房正成は城と守りし戸川達安と職之ら  
備中濱村に宿陣して故より岡山城と受  
取ぬと言ふ  
備前 浮田の舊領の事と  
軍記  
沙汰しつり  
寛永 備前 岡山城に  
備中 國都 宇賀  
陽西郡内にとりて采地八千二百二十石  
餘とたまふ  
家譜 按しつて寛永譜に采地とた  
まふとのを記して其高とあること

浦上宇喜多両家記に備前本知高相違より賜りしと記  
し公程閑暇雑書に八原原清勝利の後五十石と賜ふと見え  
備前軍記に六備中より七十石と賜りし清使番と勤むと  
つまじし公程閑暇雑書に八原より少地として一万余石賜  
ふと記し相違せりとす  
職之不足とすといふと載り  
同十九年大坂陣

以時八野田福嶋小せめ入る仙波陣取

たり寛永此頃老年にとよみ以時歩心

任せし浦上宇喜多両家記席より入るも人々授け

らまじりし清出陣とて駕小て發

向常山兼紀後兼兼士卒と命し

軍急りしハ家とのと敵小向く捨去

へし汝等命と落ししとてさうまし今夜

不慮ハ事あるハつら能墓所よりと我

ゆうしりし此時職之ハ備中組とて

房正成園城前守貞綱戸川達安同助の儀

等々同し相組あり

東照宮陣場清巡見ハ時路の傍に家物

とたきし之拜謁し達安披露して職之



出陣と言ふ一たり仰ぐ其陣少くハ  
難儀るるへこと能く我出陣はうたれ  
日頃武く過るるあくこの清波のり職之  
この意とつけたゆりり感涙やまひ浦上  
多雨此合戦く陣云後藤又云清仙波と焼  
家記て引取時諸卒く向ひ備前勢かろし  
付入へく若く人々烟つゆされに功名  
あましく我下知くくるましくこそ乃

軍勢ハ陣云く退くと見え達安とく  
めとく追討んと勇々る職之制  
く陣中ハ後藤とく武功ハもの  
あり伏云あんとくめりり烟消て後  
見まハ果く敵云伏居るやうく  
城云備前勢つと見え又云清と  
そくつとく又云清とハと察く  
て何事ハはめりし時ハより違ふ



三つ小山とて義宣の事問をたまふ  
 時清清の少く心かざる事あり  
 故より名将小使たるまゝるゝとてい  
 ひくは眞じつに事ありと遺言  
 一々るゝとて勇士言集其子以五郎右衛門  
翁物語  
 職則もくろとて寛永父とてに常陸の道  
 まゝ義宣の許に塾を右  
備前軍記述加 慶長  
 五年くゝゆゑ

東照宮と拜し奉り同年父職とて  
 こもく備前八國におもひに岡山城と  
 清取同十九年之坂陣の時新家より陣  
 とり十一月野田福嶋へ責入て平野へ  
 とし首級と得やうと是と  
 台徳院殿へ献せしうは清感の仰とかり  
 あり十二月仙波へ陣と張元和元年大  
 坂再乱の時八尾崎の城番とつと心五月

七日大坂落城、北に足利より進出すのま  
ゝに敵と討取

東照宮薨御、以後駿府より江戸へま  
ゝ

台徳院殿へ仕へたる寛永同二年

父の遺跡とつゝ七千二百二十石餘と知行

一十石の地と弟神原飛弾守職直り

分らあつた家譜同六年十月廿七日死す

四十一歳法名、玄長とす、其子五郎左衛門  
職利、父死するとして十三歳おとす、その

台徳院殿と并寛永如く遺跡とつ

と寛永二年十月采地、清朱印とたゆ

家譜

台徳院殿薨御、以後

大猷院殿へ仕へ寛永同十一年清く洛に時

二月仰とうけく遠江國今切にあまし  
船渡の事と沙汰し慶安元年正月二日  
死ひしと四十一法名宗玄としし其子  
五郎八職重と寛永十九年八月とハメ  
て  
大猷院殿にゆみえたてまつる時と十  
四歳とり慶安元年遺跡とつく家譜  
合在房大膳職  
陽の祖より  
今川寄

花房

志摩守源正成と然後守正幸と子とり  
寛永祖父ハ大守頭正定としし正定とハ  
六郎玄清と稱と家と先祖足利宮内大輔  
春氏と孫職通と時とり花房と稱と正  
幸とハと又と後としし後入道寛永  
しと道悦としとしと家と記と備前軍記と天文年  
中播磨國と備前國と小川ととと二字